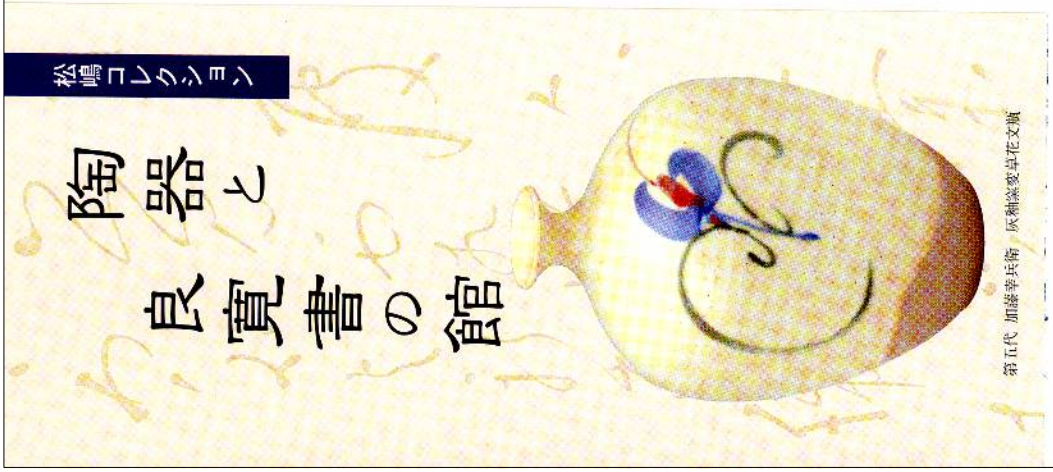
松嶋氏が良寛の書を入手した経緯

今より約６０年以前（戦後すぐ）松嶋氏は仕事の関係で、新潟の旧家高橋家の当主、高橋卯一氏と知り合います。高橋氏は趣味人であり、良寛の研究も独自に行っておりました。戦後、新潟の多くの旧家が農地改革で先祖伝来のさまざまなものを手放さざるをえなくなりました。

高橋氏は、良寛の書がばらばらになっていくことを憂い、ある日松嶋氏に「松嶋さんなら可能であるから、ぜひ良寛の書を集めてくれ。自分が、手放したいという人との橋渡しをし、お金のやり取りも行う。また松嶋さんにお渡しするものには、絶対ににせものはないと私が保証する。」

松嶋氏はその言葉を受け入れ、高橋氏が良寛の書を東京の松嶋家に届けたそうです。当時、交通も、荷物の運送も不便で、東京まで何時間もかかった中を、「大切なものなので荷物で送れぬ」と、高橋氏自身が掛け軸や書を背負って東京まで運んだそうです。

その後、そのほとんどのものは、山種美術館の収納庫に預けられ、平成６年沢入の質素な田舎屋で、初めて多くの方々の目に触れることとなりました。

沢入地域のこの環境の中で良寛の書を見てもらいたい、ということが松嶋氏の望みであり、良寛の生き方にも叶うものであると思っております。

陶器と良寛書の館